



2009年(平成21年)
6月号(No. 769)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

URL ● <http://www.jac.or.jp>

e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目次

平成21年度第1回通常総会開催……	1
新会長に尾上昇氏を選任、 若返った執行部	
平成20年度事業報告……………	4
収支計算書・正味財産増減計算書…	5
貸借対照表……………	6
計算書類に対する注記・財産目録…	7
財産目録記載外のその他物品リスト…	8
山積みした課題に向かって…………	9
第17回ビオレドールを日本の2隊が受賞…	10
「高尾の森づくり」問題……………	12
やはり事情がよくわかりません	
追悼 中村テル氏……………	13
英文ジャーナル2009年第10号	
発行と編集長交代……………	14
図書紹介……………	15
図書受入報告……………	15
会務報告……………	16
ルーム日誌……………	17
会員異動……………	17
INFORMATION……………	18
博物館紹介……………	19
富山県[立山博物館]	
新入会員……………	19

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木…………… 10～20時
水・金…………… 13～20時
第2、第4土曜日…………… 閉室
第1、第3、第5土曜日…………… 10～18時
夏季休室…………… 8月8日～8月16日

平成21年度第1回通常総会開催 新会長に尾上昇氏を選任、 若返った執行部

平成21年度第1回通常総会が、5月23日午後2時から東京・四谷の主婦会館プラザエフで開かれた。会員170人が出席し、①平成20年度事業報告、②平成20年度収支決算・財産目録の承認、③平成21・22年度役員及び評議員の選任、④平成21年度除籍予定者——について審議した結果、いずれも原案どおり可決承認された。新しい会長には、尾上昇氏を選任した。

■会長挨拶 若返りによる活性化

議案審議に先立ち、退任される宮下秀樹会長から以下のような挨拶があった。

現在の日本山岳会はさまざまな問題をかかえている。法人化の問題、高齢化と若年層の取り込み、事務局の改革などである。こうした難局を乗り切るには、まず人事の若返りにより活性化を図りたい。会長はじめ理事にはなるべく若い人を選びたいと配慮した。その結果、理事会の平均年齢が61・5歳と若返った。

高尾の森づくりの会と自然保護

委員会の間にぎくしゃくした関係が続いている。自分の任期中になんとかしたかったが、後任に託すことになった。正常化には強いリーダーシップが必要だと思うので、藤本慶光氏にお願いした。「山の日」プロジェクトにも尽力してもらいたいと思う。

再任の神崎忠男氏には、今までどおり支部担当と日本山岳協会との連携強化をお願いしたい。また首都圏在住外の会長を迎えるにあたり、東京本部との連携が大切で、そのために宮崎常務理事に総務担当兼任の副会長になつてもらった。新会長の尾上昇氏は、日本山岳会で一番元気のいい東海支部を作り上げてきた実績のある人である。また実務の面から法人化の問題にも詳しく、この時期の会長にふさ

わしいと思う。今回の人事案はいろいろな方から意見を伺い、大方の賛同を得ることができた。3号議案にあるので、承認してほしい。2年間、力足りない部分も多々あったと思うが、いろいろな協力していただいて感謝している。

■事業報告・収支決算 新しい表記法で

この日の総会には3040の委任状が提出された。平成20年度末の在籍者は5317人であり、出席者・委任状を合わせると、会員の3分の1を上回っており、総会には有効に成立した。議事に先立ち、まず会員数の推移の報告があった。有効会員数は前記のとおりで、前年度末から153人減少している。理事署名人2人の選出ののち、事

日本山岳会 平成21年度第1回



新会長として挨拶する尾上昇氏

業報告を宮崎絃一総務担当理事から、収支決算・財産目録等報告が吉永英明財務担当理事からあった。

【事業報告】 法人化移行に基づいて、事業分類の内容も少し変わってきた。「公益目的事業」と一般会員のための「共益事業」の2つに分けて報告があった。

「公益目的事業」では、登山に関する文化・学術の振興事業として、恒例の信濃支部によるウェストン祭、アラスカ・マッキンリーの気象観測、山梨支部の木暮祭、秩父宮記念山岳賞の顕彰など。児童・青少年の育成事業では、青森支部の少年少女登山教室、宮崎支部の家庭裁判所少年補導委託登山など、支部が熱心に取り組んだ。スポー

ツ及び登山に関する教育・啓蒙事業では、海外登山助成金の交付などがあり、特に対象の2団体が大きな成果を上げ、今年のピオレドールを受賞した。事故防止事業では、指導委員会が積極的に活動、12月の救急救命法講習会などが開催された。山岳環境保全事業では、高尾の森づくり、猿投の森づくりなど、全国で森づくり活動が盛んに行なわれた。国際交流事業では、8月17・24日、日中韓三国学生交流登山が韓国のインスボン、雪岳山で行なわれた。

会員のための「共益事業」では、集会委員会が活発に活動、晚餐会や春の熊野古道などの懇親山行を開催した。学生部によるクライミング集会、図書委員会による図書交換会などもあった。海外登山では、東海支部の第10次インド・ヒマラヤ登山隊を派遣した。

【収支決算等】 財務諸表は、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録の4つある。今年から公益法人化したことが表記をしている。特に収支計算書と正味財産増減計算書は、新しい表記方法になった。

まず収支決算であるが、日本山

岳会は収入の9割以上を会費でまかなっているのが基本。平成20年度の会費収入は5852万円で、収入の90・5割程度に当たる。今年は予想以上に退会者、物故者、除籍者が多く、予算比率では95・9割と下回ってしまった。会費・入会金収入合計が6062万円。事業収入は、『山岳』『山』の広告料が予算より71万円ふえ、合計649万円。補助金収入、寄付金収入、雑収入などを加え、7080万円となった。特定預金取崩収入、繰入金収入を加え、収入合計が1億1746万円だった。

支出は、事業活動支出として事業費、管理費、特定預金支出の項目に分かれる。出版事業費、図書管理事業費、調査研究事業費、指導研究事業費、支部事業費など事業費の合計が4626万円。マン

ションの老朽化などによる事務所管理費が増える傾向にあり、管理費合計は2651万円。管理費より事業費を多くするよう心がけ、その結果、ほぼ6割を事業費にまわしている。特定預金支出は、海外登山基金を取り崩し、秩父宮記念賞基金に積み上げた。遭難防止事業基金は新しく積み上げたもの

で、昨年末から始めた冬山気象サービスに当てようというもの。事業活動支出は1億1787万円。収入と支出で、40万円の赤字となった。平成21年度の繰越差額は、1084万円を計上した。

つづいて日本山岳会の財産、負債を明らかにした貸借対照表の説明があった。流動資産1314万円、固定資産3億3032万円、山岳会の財産である資産合計が3億4346万円となった。負債は前受会費など流動負債37万円、退職給与引当金など固定負債342万円、負債合計380万円となっている。資産合計から引いて、正味財産として3億3967万円となる。

【監査報告】

これらに対し竹中彰監事から収支計算書等が正確かつ妥当であり、また理事の業務執行が誠実に行なわれたことを認める監査報告があった。ただし、かなりの預金があるので、口座の数が多く、整理するなど合理的な管理をしてもらいたい旨の要望があった。

■理事・監事、評議員の改選
執行部案どおり拍手で承認

第3号議案は「役員・評議員の改選」。理事・評議員は理事会、会長・副会長は評議員会から推薦、候補者が提示され、理事は10歳ほどの若返りがみられた。多数の拍手でもって執行部案どおり承認された。

平成21・22年度理事・監事

会長	尾上 昇	新任
副会長	宮崎紘一	再任
副会長	神崎忠男	再任
副会長	藤本慶光	新任
理事	太田晃介	再任
理事	成川隆顕	再任
理事	堀井昌子	再任
理事	相馬 勉	再任
理事	山川陽一	再任
理事	岡部 紘	再任
理事	野沢誠司	新任
理事	中山茂樹	新任
理事	谷川太郎	新任
理事	永田弘太郎	新任
理事	萩原浩司	新任
理事	深川安明	再任
理事	平井拓雄	新任

評議員

▽再任Ⅱ秦野一彦、阿部和行、酒井省二、中野和郎、高遠宏、新妻徹、濱口欣一、山本聖二、坂口三郎、近藤緑、寺西申生、小嶋尚

▽新任Ⅱ堂本暁子、羽田栄治、箕岡三穂、塩澤厚、森武昭、渡邊玉枝

■21年度除籍予定者

対象者は84人

平成21年度の除籍対象者は84人。会費を19・20年度の2年間滞納している会員が対象となる。21年度も納入しないと除籍となる。昨年度は対象者101人で除籍になったのは50人だった。予定者の約半数が除籍になるという。知り合いには声をかけて、会費を納めて留まっしてほしいとの要請があった。

■質疑・応答

柴田篤志会員（4932）年次晩餐会を毎年、高輪プリンスホテルで開催しているが、いかがなものか。

宮下会長 晩餐会は東京でやってほしいという意見が多く、大勢参加できる高輪プリンスホテルになっってしまう。

中世古隆司（5178）晩餐会はできるだけ大勢参加したほうがいいと思う。

古市進（10959）収支計算書の特定預金取崩収入の終身会費

積立金の1150万円の1000万は遭難対策になるのだろうか、150万はどこに対応するのか。

吉永常務理事 1000万円を遭難防止事業基金、30万円を積立金、残り120万円を一般会計で使った。

柴田会員 会員証に年齢のわかるような表示をしてもらえないか。

宮崎常務理事 会員証の再交付、発送はとても負担が大きい。

■新会長挨拶

若いパワーで難局を乗り切りたい
議事終了のあと新役員・評議員が紹介された。会場の前にずらりと並び、宮崎総務担当理事から紹介され、それぞれ大きな拍手を受



若返りが図られた新執行部

けた。尾上新会長は「大変大きな課題をかかえている山岳会にあって、責任の重さを感じる。学生部をはじめ東海支部でもお世話になり、45年間、日本山岳会とともに過ごしてきた。こうした山岳会に對する思いと、東海支部で培ってきたノウハウと、さらに一般社会で組織運営に携わってきた経験を生かして、精一杯務めていきたいと思う。宮下前会長から強く要請されたのだが、その真意は人事の若返りにあると思う。若いパワーでこの難局を乗り切っていきたいと思う」と挨拶があった。

■新支部長紹介

岩手、宮城、静岡、宮崎

新しい支部長が紹介された。岩手は内山達雄氏（11612）、宮城は高橋二義氏（7885）、静岡は久保田保雄氏（6270）、宮崎は末永軍朗氏（13054）。

また退任の宮下前会長、理事、評議員の方たちの労をねぎらい、最後に大きな拍手が送られた。

総会終了後、懇親会が開かれた。神崎忠男副会長が乾杯の音頭をとって和やかな歓談が続けられた。

（文Ⅱ神長幹雄）

6月16日・7月14日	登山道の整備（福島）	
6月～11月	森林パトロール（岐阜）	岐阜県下国山林内
6月1日～9月30日	高山植物盗掘防止パトロール（北海道）	十勝岳連峰・大雪山
6月27～28日、9月26～28日	白神山地ブナ林再生事業（青森）	白神山
6月29日・7月20日・2月22日	宮崎支部水源の森育林作業（宮崎）	宮崎市、西都市
7月6日	日光山系清掃登山（栃木）	奥日光
7月13日	高山植物盗掘防止パトロール（青森）	
8月29日	鳥海山ニッコウキスゲ植生調査（山形）	鳥海山
9月6日	富士山清掃事業（静岡）	
9月7日	那須岳クリーンキャンペーン（栃木）	那須岳周辺
通年	高尾の森づくり（自然保護）	
〃	森林保全巡視活動（北九州）	福智山山系
〃	大山頂上汚泥キャリダウ・ボランティア（山陰）	大山
〃	猿投の森づくり（東海）	
〃	泰澄の森づくり（福井）	

（6）国際交流事業

5月9日	ヒラリー卿追悼講演会・映画会（海外）	東京・代々木
8月17～24日	日中韓学生交流登山（学生）	韓国
10月3～14日	AACインターナショナル・クライマーズ・フェスティバル	米国

（7）その他目的を達成するための事業

山岳遭難の予防と対策に関する関係団体との協議
 国内関係団体（日本山岳協会、東京都山岳連盟、日本ネパール協会、日本ヒマラヤ協会、日本勤労者山岳連盟、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト、日本山岳文化学会）との連携
 海外登山団体との情報交換及び機関誌の交換等
 国内博物館・美術館との提携
 「上高地山岳研究所」の運用
 登山記録等の保存・整備

2. 共益事業（会員のための事業）

（1）登山、集会、施設の運用等

4月19～20日	学生部所属大学山岳部新入部員歓迎会（学生）	氷川キャンプ場
4月24日	上高地山研閉所（山研）	上高地
5月11日	講演会、千葉の里山と自然保護（千葉）	京葉銀行文化プラザ
5月31日～6月1日	新入会員のための徳本峠越えとウェストン祭（山研）	上高地
5月31日～6月3日	春の熊野古道（集会）	熊野古道
7月14日	第37回山岳史懇談会（図書）	本会
8月9～13日	北アルプスを歩く（集会）	薬師・水晶・鳥帽子
9月	第13回古道を歩く（図書）	本会
10月3～5日	紅葉山行（集会）	奥入瀬・八甲田
10月11～12日	第24回全国支部懇談会（北九州）	小倉
10月22日	第17回山を語る（図書）	本会
10月25日	新入会員オリエンテーション（総務）	本会
11月9日	上高地山研閉所（山研）	上高地
11月15～16日	クライミング集会（学生）	小川山
11月19日	学生部所属大学山岳部マラソン大会（学生）	皇居一周
12月6日	平成20年度年次晩餐会（総務）	高輪プリンスホテル
12月7日	晩餐会記念山行（集会）	筑波山
12月30日～1月4日	冬季開所（山研）	上高地
1月10～12日	スキー懇親会（集会）	榑池
1月27日～2月4日	タスマニア登山（集会）	オーストラリア
3月7日	第26回図書交換会（図書）	本会
3月25日	第39回山岳図書を語る夕べ（図書）	本会

（2）海外登山等

7月11日～8月12日	第10次インド・ヒマラヤ登山隊の派遣（東海）	インド
-------------	------------------------	-----

（3）会議等

通常総会の開催（5月17日・平成21年3月14日）
 理事会の開催（11回）
 常務理事会の開催（11回）
 支部長会議（5月17日・9月8日9日・12月6日）
 支部事務局担当者会議の開催（2月7日～8日）
 評議員会の開催（10月18日、3月7日）

（社）日本山岳会 平成20年度事業報告（主な事業）

平成20年4月1日～平成21年3月31日

1. 公益目的事業

（1）登山に関する文化・学術の振興事業

4月	今西錦司賞（京都・岐阜）	関観光ホテル
4月～11月	ミニ水力発電装置運用（山岳研究所運営）	上高地
4月16日	山岳講演「七大陸とヒマラヤの山々」（京都）	
4月20日	第27回深田祭（山梨）	茅ヶ岳
5月	英文ジャーナル（Japanese Alpine News Vol.9）の発行	本会
5月11日	播磨祭（富山）	旧河内村
5月24～25日	泰澄祭（福井）	
5月31日～6月1日	ウェストン祭（上高地・信濃）	上高地
6月7～8日	登山文化の夕べ「今西錦司先生を語る」（京都）	
6月	アラスカ・マッキンリー峰気象観測（科学）	アラスカ
7月12日	第4回山の博覧会（山梨）	山梨学院大学
10月18日	全国山岳博物館等連絡会議（資料映像）	本会
10月19日	第49回木暮祭（山梨）	金山平
11月3日	第24回宮崎ウェストン祭（宮崎）	高千穂町
12月	『山岳』103年（2008）年の発行（山岳編集）	本会
12月6日	第10回秋父宮記念山岳賞	本会
通年	会報『山』755号～766号の発行（会報編集）	本会
〃	図書室の整備・研究（図書管理・図書）	本会
〃	登山資料・山岳絵画の整備（資料映像）	本会

（2）児童・青少年の育成事業

7月20～21日	少年少女登山教室（青森）	
7月31日～8月3日	第9回自然児学校（北海道）	新冠町
8月2日	子供登山教室（宮崎）	えびの高原
8月2～4日	発達障害児のサポート登山（宮城）	蔵王国定公園
10月18日	登山の為のGPS講座（京都）	
11月14日	宮崎家庭裁判所少年補導委託登山（宮崎）	霧島（韓国岳）

（3）スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業

6月7日・14日・21日	中高年初心者対象登山教室（静岡）	
6月29日	蔵王山エコ登山（山形）	蔵王
7月12日	山岳映画の夕べ（栃木）	宇都宮
8月2～4日	発達障害児のサポート登山（宮城）	蔵王
9月7日	鳥海山スケッチ登山（山形）	鳥海山
10月25日	秋季講演会・伊能忠敬の地図（栃木）	宇都宮
～11月	四国分水嶺踏査（関西）	
12月1～30日	山の写真展（岐阜）	岐阜市、大垣市
2月	海外登山助成金の交付	
2月20日	山岳講演会 伊能忠敬から「奥岳点の記」まで（富山）	北日本新聞ホール
通年（月1回例会開催）	中国新聞「登山講座」（広島）	広島県
〃	中日文化センター登山教室（東海）	
〃	朝日カルチャーセンター登山教室（東海）	

（4）事故防止事業

7月8日	三浦豪太氏のエベレストでの高山病症状検討会（医療）	
12月10日	講習会「山岳遭難救助の実際」（指導）	
12月13日	救急救命法講習会（指導）	
12月19日～1月18日	登山者のための冬山局地天気予報	本会
1月17～19日	雪崩講習会（雪上実地）（指導）	榑池
2月21～22日	大山冬山パトロール（山陰）	大山

（5）山岳環境保全事業

4月～12月	権現の森林づくり（岐阜）	揖斐川町
4月19～20日	自然保護全国集会（自然保護）	
4月23日～5月13日	ヒマラヤ環境調査トレッキング隊（自然保護・科学）	ネパール
5月10～24日	高頭山登山道整備（富山）	高頭山
5月16日	イヌワシの森づくり研修会（山形）	
5月20日・7月27日・10月5日	支笏湖周辺復興の森づくり（北海道）	支笏湖周辺
6月1日	白山登山道整備事業（石川）	越前禪定道
6月12・13日	真富士山登山道整備事業（静岡）	
6月15日	夜叉ヶ池清掃登山（福井）	

会議費	50,000	120,098	-70,098
什器備品費	100,000	0	100,000
振替手数料	800,000	649,632	150,368
福利厚生費	2,000,000	1,723,962	276,038
事務所管理費	1,240,000	1,309,960	-69,960
その他管理費	1,800,000	1,717,710	82,290
負担金	50,000	30,000	20,000
賃借料	3,240,000	3,240,000	0
雑費	600,000	743,088	-143,088
管理費計	26,430,000	26,515,509	-85,509
特定預金支出			
長期計画積立金支出	0	0	0
秩父宮記念賞基金支出	0	34,800,000	-34,800,000
海外登山基金支出	0	0	0
終身会費積立金支出	500,000	300,000	200,000
遭難防止事業基金支出	0	10,000,000	-10,000,000
退職給与引当金支出	0	0	0
特定預金支出計	500,000	45,100,000	-44,600,000
事業活動支出計	71,510,000	117,872,291	-46,362,291
事業活動収支差額	1,600,000	-408,225	2,008,225

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ 予備費支出	1,500,000	0	1,500,000	
当期収支差額	100,000	-408,225	508,225	
繰越収支差額	11,243,764	11,243,764	0	
次期繰越収支差額	11,343,764	10,835,539	508,225	

正味財産増減計算書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

科 目	当年度	前年度	増 減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用収入			
基本財産利息収入	22,798	19,598	3,200
会費・入会金収入			
入会金収入	1,800,000	2,180,000	-380,000
通常会費収入	58,518,000	60,340,000	-1,822,000
終身会費収入	300,000	348,000	-48,000
会費・入会金収入計	60,618,000	62,868,000	-2,250,000
事業収入			
広告料収入	2,313,500	1,486,000	827,500
印税収入	0	0	0
刊行物売上収入	234,220	621,540	-387,320
山研使用料収入	1,710,329	1,961,865	-251,536
その他事業収入	2,227,089	1,846,475	380,614
事業収入計	6,485,138	5,915,880	569,258
補助金等収入			
補助金収入	765,000	1,000,000	-235,000
寄付金収入			
寄付金収入	1,176,943	734,267	442,676
雑収入			

収 支 計 算 書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入				
基本財産利息収入	10,000	22,798	-12,798	
会費・入会金収入				
入会金収入	2,200,000	1,800,000	400,000	
通常会費収入	61,000,000	58,518,000	2,482,000	
終身会費収入	500,000	300,000	200,000	
会費・入会金収入計	63,700,000	60,618,000	3,082,000	
事業収入				
広告料収入	1,600,000	2,313,500	-713,500	
印税収入	0	0	0	
刊行物売上収入	300,000	234,220	65,780	
山研使用料収入	2,500,000	1,710,329	789,671	
その他事業収入	2,000,000	2,227,089	-227,089	
事業収入計	6,400,000	6,485,138	-85,138	
補助金等収入				
補助金収入	1,500,000	765,000	735,000	(注)1
寄付金収入				
寄付金収入	0	1,176,943	-1,176,943	
雑収入				
受取利息	300,000	467,154	-167,154	
雑収入	1,200,000	1,256,245	-56,245	
雑収入計	1,500,000	1,723,399	-223,399	
特定預金取崩収入				
海外登山基金	0	34,800,000	-34,800,000	
終身会費積立金	0	11,500,000	-11,500,000	
特定預金取崩収入計		46,300,000	-46,300,000	
繰入金収入				
百周年会計繰入金収入	0	372,788	-372,788	
事業活動収入計	73,110,000	117,464,066	-44,354,066	

(注) 1 (財)自然保護助成基金 ￥765,000

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
2. 事業活動支出				
事業費				
出版事業費	11,150,000	10,237,598	912,402	
図書管理事業費	200,000	114,876	85,124	
調査研究事業費	2,800,000	1,456,277	1,343,723	
指導研究事業費	490,000	301,158	188,842	
支部事業費	10,000,000	12,005,098	-2,005,098	
海外事業費	150,000	248,924	-98,924	
山岳研究所事業費	1,580,000	1,571,481	8,519	
山岳研究所管理費	2,560,000	2,568,460	-8,460	
ミニ水力発電運営費	150,000	37,700	112,300	
海外登山補助費	1,500,000	1,200,000	300,000	
その他事業費	9,300,000	8,895,405	404,595	
印刷・製本費	500,000	2,654,642	-2,154,642	
刊行物発送費	4,200,000	4,965,163	-765,163	
事業費計	44,580,000	46,256,782	-1,676,782	
管理費				
給料手当	12,000,000	12,521,440	-521,440	
文具消耗品費	100,000	90,579	9,421	
印刷製本費	1,250,000	1,234,086	15,914	
旅費交通費	500,000	806,744	-306,744	
通信運搬費	800,000	584,141	215,859	
火災保険料	180,000	182,970	-2,970	
修繕費	100,000	0	100,000	
租税公課	650,000	581,300	68,700	
光熱水料費	650,000	685,231	-35,231	
電話料	320,000	294,568	25,432	

退職給与引当預金取崩額	0	1,268,313	－1,268,313
経常収益調整額	1,200,000	652,000	548,000
経常外収益計	46,479,933	6,068,313	40,411,620
(2) 経常外費用			
棚卸資産減少額	0	111,513	－111,513
長期計画準備金減少額	0	3,800,000	－3,800,000
終身会費積立金減少額	11,500,000	0	11,500,000
海外登山基金減少額	34,800,000	0	34,800,000
退職給与引当預金減少額	0	1,268,313	－1,268,313
経常外費用計	46,300,000	5,179,826	41,120,174
当期経常外増減額	179,933	888,487	－708,554
当期一般正味財産増減額	－6,664,421	－81,422,474	74,758,053
一般正味財産期首残高	346,332,229	427,754,703	－81,422,474
一般正味財産期末残高	339,667,808	346,332,229	－6,664,421
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	0	0	0
受取負担金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0
基本財産運用益	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0
基本財産評価益	0	0	0
特定資産評価益	0	0	0
基本財産評価損	0	0	0
特定資産評価損	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	339,667,808	346,332,229	－6,664,421

貸 借 対 照 表

平成21年3月31日現在

科 目	当年度	前年度	増 減
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金	355,572	81,034	274,538
振替貯金	2,183,490	2,428,884	－245,394
普通預金	3,917,740	4,748,806	－831,066
定期預金	0	0	0
未収会費	4,752,000	4,440,000	312,000
棚卸資産	1,935,933	1,756,000	179,933
流動資産合計	13,144,735	13,454,724	－309,989
2 固定資産			
(1) 基本財産			
貸付信託	8,000,000	8,000,000	0
基本財産合計	8,000,000	8,000,000	0
(2) 指定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他の固定資産			
土地	74,953,705	74,953,705	0
建物	85,849,680	90,914,056	－5,064,376
敷金	288,450	288,450	0
什器備品	136,793	136,793	0
発電装置	2,199,403	2,371,156	－171,753
長期計画準備金	26,246,305	26,246,305	0
秩父宮記念基金	50,000,000	15,200,000	34,800,000
終身会費積立金	10,422,000	21,622,000	－11,200,000
海外登山基金	58,800,000	93,600,000	－34,800,000
遭難防止事業基金(森基金)	10,000,000	0	10,000,000
退職引当預金	3,423,307	3,423,307	0
その他の固定資産合計	322,319,643	328,755,772	－6,436,129
固定資産合計	330,319,643	336,755,772	－6,436,129
資産合計	343,464,378	350,210,496	－6,746,118

受取利息	467,154	414,453	52,701
雑収入	1,256,245	1,202,741	53,504
雑収入計	1,723,399	1,617,194	106,205
基本財産収入			
基本財産収入	0	0	0
繰入金収入			
百周年会計繰入金収入	372,788	0	372,788
経常収益計	71,164,066	72,154,939	－990,873

科 目	当年度	前年度	増 減
(2) 経常費用			
事業費			
出版事業費	10,237,598	12,395,235	－2,157,637
図書管理事業費	114,876	162,891	－48,015
調査研究事業費	1,456,277	2,205,787	－749,510
指導研究事業費	301,158	476,293	－175,135
支部事業費	12,005,098	10,575,401	1,429,697
海外事業費	248,924	197,544	51,380
山岳研究所事業費	1,571,481	1,316,690	254,791
山岳研究所管理費	2,568,460	2,547,373	21,087
ミニ水力発電運営費	37,700	125,000	－87,300
海外登山補助費	1,200,000	1,200,000	0
その他事業費	8,895,405	10,471,060	－1,575,655
印刷・製本費	2,654,642	579,003	2,075,639
刊行物発送費	4,965,163	4,713,448	251,715
事業費計	46,256,782	46,965,725	－708,943
管理費			
給料手当	12,521,440	13,619,780	－1,098,340
文具消耗品費	90,579	110,870	－20,291
印刷製本費	1,234,086	1,047,065	187,021
旅費交通費	806,744	368,820	437,924
通信運搬費	584,141	592,779	－8,638
火災保険料	182,970	184,600	－1,630
修繕費	0	0	0
租税公課	581,300	572,300	9,000
光熱水料費	685,231	738,352	－53,121
電話料	294,568	328,870	－34,302
会議費	120,098	10,113	109,985
什器備品費	0	37,500	－37,500
振替手数料	649,632	715,360	－65,728
福利厚生費	1,723,962	2,082,048	－358,086
事務所管理費	1,309,960	1,128,210	181,750
その他管理費	1,717,710	1,761,706	－43,996
負担金	30,000	30,080	－80
賃借料	3,240,000	3,510,000	－270,000
雑費	743,088	812,280	－69,192
管理費計	26,515,509	27,650,733	－1,135,224
減価償却費			
建物	5,064,376	73,532,409	－68,468,033
発電装置	171,753	1,445,594	－1,273,841
什器備品	0	4,871,439	－4,871,439
減価償却費計	5,236,129	79,849,442	－74,613,313
繰入金支出	0	0	0
経常費用計	78,008,420	154,465,900	－76,457,480
当期経常増減額	－6,844,354	－82,310,961	75,466,607

科 目	当年度	前年度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
棚卸資産増加額	179,933	0	179,933
長期計画準備金取崩	0	3,800,000	－3,800,000
秩父宮記念基金増加額	34,800,000	0	34,800,000
終身会費積立金増加額	300,000	348,000	－48,000
遭難防止事業基金増加額	10,000,000	0	10,000,000

前受会費	150,000	111,000	
仮受金	32,000	16,840	
預り金	272,960	245,423	
合計	454,960	373,263	
次期繰越収支差額	11,243,764	10,835,539	

4. 固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建 物	164,446,465	78,596,785	85,849,680
ミニ水力発電装置	3,816,750	1,617,347	2,199,403
什 器 備 品	5,008,232	4,871,439	136,793
合 計	173,271,447	85,085,571	88,185,876

財 産 目 録

平成21年3月31日現在

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	355,572	
振替貯金 千代田四番町郵便局	2,183,490	
普通預金 りそな銀行市ヶ谷支店	2,130,275	
〃 三菱東京UFJ銀行市ヶ谷支店	816,127	
〃 中央三井信託銀行本店	342,788	
〃 みずほ銀行市ヶ谷支店	253,620	
〃 三井住友銀行飯田橋支店	239,072	
〃 三菱東京UFJ銀行新宿支店	105,257	
通常貯金 千代田四番町郵便局	30,601	
未収会費396名	4,752,000	
棚卸資産（注）1	1,935,933	
流動資産合計		13,144,735
2 固定資産		
(1) 基本財産		
貸付信託 中央三井信託銀行	8,000,000	
基本財産合計	8,000,000	
(2) その他の固定資産（注）2		
土 地	74,953,705	
建 物	85,849,680	
敷 金	288,450	
什器備品	136,793	
発電装置	2,199,403	
長期計画準備金		
（定期預金千代田四番町郵便局）	5,043,000	
（定期預金三菱東京UFJ市ヶ谷）	21,203,305	
秩父宮記念基金		
（定期預金三菱東京UFJ新宿）	20,000,000	
（定期預金みずほ市ヶ谷）	30,000,000	
終身会費積立金		
（普通預金みずほ市ヶ谷）	10,422,000	
海外登山基金		
（定期預金りそな市ヶ谷）	33,600,000	
（定期預金三井住友飯田橋）	25,200,000	
遭難防止事業基金		
（定期預金みずほ市ヶ谷）	10,000,000	
退職引当預金		
（定期預金みずほ市ヶ谷）	3,423,307	
その他固定資産合計	322,319,643	
固定資産合計		330,319,643
資産合計		343,464,378
II 負債の部		
1 流動負債		
前受会費平成21年度会費 10名分	111,000	
預り金職員に対する源泉所得税その他	245,423	
仮受金	16,840	
流動負債合計		373,263

II 負債の部			
1 流動負債			
前受会費	111,000	150,000	－39,000
預り金	245,423	272,960	－27,537
仮受金	16,840	32,000	－15,160
流動負債合計	373,263	454,960	－81,697
2 固定負債			
退職給与引当金	3,423,307	3,423,307	0
固定負債合計	3,423,307	3,423,307	0
負債合計	3,796,570	3,878,267	－81,697

科 目	当年度	前年度	増 減
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
（うち基本財産への充当額）	(0)	(0)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(0)	(0)	(0)
2 一般正味財産	339,667,808	346,332,229	－6,664,421
（うち基本財産への充当額）	(0)	(0)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	339,667,808	346,332,229	－6,664,421
負債及び正味財産合計	343,464,378	350,210,496	－6,746,118

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- 固定資産の減価償却について
事務室・集会室・図書室：耐用年数50年・残価率10%の定額法によった。
過年度分 14,387,323円
当年度分 475,614円
104号室：耐用年数23年・残価率10%の定額法によった。
過年度分 1,937,270円
当年度分 774,908円
上高地山岳研究所：鉄筋コンクリート造部分耐用年数50年・残価率10%、木造部分耐用年数22年・残価率10%の定額法によった。
過年度分 57,207,816円
当年度分 3,813,854円
ミニ水力発電装置：耐用年数20年・残価率10%の定額法によった。
過年度分 1,445,594円
当年度分 171,753円
什器備品：いずれも耐用年数を経過しているため、残価率10%の額とした
- 資金の範囲について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の109%に相当する額を計上している。
- 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費、預り金、仮受金及び未払金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減額及び残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託 （中央三井信託銀行）	8,000,000	0	0	8,000,000
合計（基本金）	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現金預金	7,258,724	6,456,802	
未収会費	4,440,000	4,752,000	
合 計	11,698,724	11,208,802	
未 払 金	0	0	

瀬沢より北穂高	水彩—6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
初夏の槍ヶ岳	油—10	中村 清太郎	本 会
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎 千代二	本 会
北穂高岳滝谷	油—25	足立 源一郎	本 会
成朝の槍ヶ岳	油—25	足立 源一郎	伯耆国山岳美術館
北穂高主峰	油—25	足立 源一郎	本 会
朝の槍ヶ岳	油—P8	足立 源一郎	本 会
タンボチュの僧院	水彩—4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩—4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山（清太山）	墨絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
梓川秋色	油—12	後藤 三男	本 会
早朝の上高地山岳研究所	版画—8	松田 敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩—10	松田 敏男	上高地山岳研究所
焼岳秋趣	版画—8	鈴木 正俊	伯耆国山岳美術館
ナムチャバルワ峰暮色	油—10	神原 忠夫	伯耆国山岳美術館
白馬雪田	日本画	丸山 晚霞	本 会
上高地秋景	油—F20	後藤 三男	上高地山岳研究所
マチャブチャレ	油—20	武井 清	本 会
朝霧	水彩—8	越智 英夫	本 会
白樺の林	油—6	茨木 猪之吉	本 会
麓春	油—P50	倉員 辰雄	本 会
ヒマヤダージンにて	油—F4	上野 春香	伯耆国山岳美術館
タムセルク	油—30	武井 清	本 会
安曇野の春	油—30	後藤 三男	松本アルプス山岳館
ヒマラヤの古都	油—30	藤江 幾太郎	本 会
アルバータ	油—6	レオン・アマン	本 会
ケルン	油—6	金光 義朗	上高地山岳研究所
山	油—6	辰沼 広吉	本 会
アルバータとピッケル	水彩	カナダ山岳会	本 会
題名不詳 24枚	油—10	茨木 猪之吉	本 会
題名不詳 8枚	油—6	茨木 猪之吉	本 会
題名不詳 12枚	水彩	茨木 猪之吉	本 会
スケッチブック	32冊	茨木 猪之吉	本 会
ロンブクよりエベレスト	版画	H. ソマベル	大町山岳博物館
白馬残照	版画	鈴木 正俊	本 会
穂高連峰	版画	小暮 真望	本 会
安曇野と常念岳	版画	小暮 真望	本 会
尾瀬と燧ヶ岳	版画	小暮 真望	本 会
谷川岳	版画	小暮 真望	本 会
シダング山 晩秋	版画	鈴木 正俊	本 会
檜洞丸山荘	版画	鈴木 正俊	本 会
世界の名山36峰ペン画集	ペン画	牧 潤一	本 会

(他の絵画、写真 省略)

2. 図 書

和 書	平成20年度受入冊数	154冊	蔵書計	11,654冊
洋 書	平成20年度受入冊数	14冊	蔵書計	3,830冊

3. フィルム・ビデオ

フィルム	15点	「マナスルに立つ」	他
ビデオ	280点	「映像史 ヒマラヤへの道」	他
D V D	12点	「エベレスト征服」	他

社団法人 日本山岳会 平成20年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成21年5月8日

社団法人 日 本 山 岳 会

監 事 深 川 安 明
監 事 竹 中 彰

2 固定負債			
退職給与引当金			
固定負債合計	3,423,307	3,423,307	
負債合計			3,796,570
正味財産合計			339,667,808

(注) 1 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	『山岳』総索引、『山岳』覆刻版 等	698,320
服飾品、その他	クラブタイ、ワッペン 等	1,237,613
合 計		1,935,933

(注) 2 その他固定資産内訳

1. 建物および土地

A. 事務所および土地（S53.1.24 及び H17.10.30 取得）		
場所	東京都千代田区四番町5番4号	
構造	鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建（事務所）区分所有建物1階部分103.32㎡（専有部分）	（取得価格） 土地 74,953,705
	宅地持分1,124.56㎡×339/10,000 =38.122584㎡	
	（図書室）区分所有建物1階部分55.22㎡（専有部分）	建物 46,446,465
	宅地持分1,124.56㎡×176/10,000 =19.792256㎡	
	（104号室）区分所有建物1階部分80.36㎡（専有部分）	（当期末残高） 103,825,055
	宅地持分1,124.56㎡×261/10,000 =29.351016㎡	
計	238.9㎡ 宅地持分 87.265856㎡	
B. 上高地山岳研究所（H5.8.21 取得）		
場所	長野県松本市安曇4469番地1	（取得価格）
構造	木造2階建地下1階（一部コンクリート造）	118,000,000
	1棟 274.09㎡	（当期末残高） 56,978,330
C. ミニ水力発電装置（H11.11.30 取得）		
場所	長野県松本市安曇 4469 番地 1	（取得価格）
	（上高地山岳研究所）	3,816,750
構造	1kw発電用	（当期末残高） 2,199,403
合 計		163,002,788

2. 什器備品

品 名	取得年月日	取得価格	当期末残高
シャープ液晶ビジョン一式（事務所）	H02.07.19	587,932	58,793
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H（山研）	05.03.20	250,000	25,000
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35（山研）	05.03.20	280,000	28,000
ナショナルBS付ビデオ HV-BS50S（山研）	05.03.20	250,000	25,000
合 計		1,367,932	136,793

財産目録記載外のその他物品リスト（主として受贈品）

1. 絵 画

題 名	種類・号数	作 者 名	掲載・保管場所
シュラギントワイト・アトラス	リトグラフ	シュラギントワイト兄弟	本 会
白馬岳	油—A50	中村 清太郎	大町山岳博物館
富士山麓	油—A25	茨木 猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形—6	中村 清太郎	本 会
群猿	墨絵	石井 鶴三	本 会
伊豆半島	油—10	茨木 猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠より	油—10	茨木 猪之吉	本 会
徳本峠から穂高連峰	墨絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油—10	茨木 猪之吉	本 会
鳥（カット原画）	墨絵	石井 鶴三	本 会
メールドグラス	エッチング		本 会
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ遠望	エッチング	シュラギントワイト	本 会
ユングフラウ	油	山里 寿男	伯耆国山岳美術館

マニフェスト

山積みした課題に向かつて

尾上昇

このたびは、会員皆様のご推挙を賜りまして、日本山岳会の会長に就任させていただきました。今の私の心境は、山岳会が多くの問題を抱えるこの時期に、私ごときに会長という重責が果たせられるのかとの思いで一杯です。

私事になりますが、私が山岳会に入会したのは、昭和40(1965)年で、お茶の水にルームがあった時代です。所属していた大学の山岳部の部室が近かったことと、4年次には学生部の委員長を務めさせていだいていたこともあって、ルームには頻繁に足を運んでいました。

当時、学生部の面倒を見ておられたのは、村木潤次郎さん、竹田寛次さん、田辺壽さんなどの各大学山岳部のOBの方々でした。

学生生活を終えて名古屋に戻ったのですが、途端、東海支部から呼び出され、あれこれ手伝わされている間に、気がついたら45年も経っていたところでした。

これまでの人生のほぼ三分の二は、山岳会と共にあったわけで、それだけに山岳会には、強い愛着を持っています。私の自慢は、この山岳会への熱き思いと、全国の多くの会員の皆様に知己を得られたことです。

山の世界以外では、長年民間企業の経営に携わってきていますし、各種の公益法人の運営にも手を染めてきています。いずれも今も現役で、組織運営のマネージメントにつきましましては、いささか心の内に期するものがございます。

さて、現在の日本山岳会ですが、大小取り混ぜて対応を迫られている課題が山積んでいます。

まず当面の課題は、公益法人の新制度移行への対応でしょう。平成25年11月末までに、公益社団法人か一般社団法人かを選択して内閣府に申請しなければなりません。いずれの選択にもメリット、デメリットが交錯していることから判断をより難しくしています。来年

の総会までには、方針を決めさせていただきます。

次の大きな課題は、会員の高齢化と若年会員対策です。古い会報を繙(ひもと)きますと、20年近くも前から、歴代会長がその所信のなかで必ず触れられています。しかし、一向に改善の兆しは見えておらず、今日にいたっているのが現状です。

会員の高齢化は、自然の成り行きです。それは是とし、今以上に積極的に熟年パワーを生かして、各種の活動に参画していただき、活性化の源となっていただきましよう。

肝心の若者対策です。もう概念論や精神論の時ではありません。

まずは、日本山岳会の枠組みを越えて日本の若者を山に向かわせる環境づくりを、具体的な事業計画として取り組むことから始めたいと思います。幸い宮下前会長のご配慮による理事会の若返りによって、積極的に対応できる態勢が整ったのは、頼もしい限りです。

次に上げたいのは、支部の活性化です。あわせて首都圏の支部化です。日本山岳会の活動の原点は、支部活動です。支部が活性化すればすなわちそれは、山岳会の隆盛

です。その重要性につきましては、昨年の『山』の誌上で宮下会長、神崎副会長が述べられていますので、充分ご認識をいただいているものと思います。

四つ目は、山の日プロジェクトです。これは、昨年から継続事業です。まず、本部に山の日プロジェクトチームを設置します。あわせて各支部にもプロジェクトチームの設置を要請します。本部と支部の連携を軸に、山の日という目標設定を掲げ、山に関心を持ってもらう運動を全国レベルで盛り上げたいと思います。

その他、本部と支部の密接な連携、自然保護運動への取り組み方、各支部で盛んな森づくりの会の連携、クラブ活動や同期会のあり方、会員制度の検討等々と課題は枚挙にいとまありません。さらには、百年余の山岳会の伝統が育んだ日本独自の山岳文化の継承にも力を注がなければなりません。

組織は、そこに属する人々が、同じ目的に向かつて歩みをとともにした時、大きなパワーを発揮します。会員の皆様、ともに山岳会再構築のために、一緒に最初の一歩を踏み出そうではありませんか。

トピックス

第17回ピオレドールを日本の2隊が受賞

天野和明

今回で第17回目を迎えたピオレドール(黄金のピッケル賞)2009。前回の第16回は2007年で、チョモランリ北西壁の登攀で受賞したスロベニアのマルコ・プレゼリが賞を辞退し、近年、アルパインスタイルよりも極地法によるクライミングを賞に選んだ選考方法や、評価の難しいアルパインクライミングに比較評価やコンペティションを持ち込んだなどと、ピオレドールの存在意義そのものを批判するようなコメントを発したため、前年の2008は賞自体が見送られた。

そうした経緯を経て再開された今回のピオレドール。再開するまでには意義の洗い出しや再確認など、批判を跳ね返すだけの相応な準備と熟慮が必要であつただろう。そして今年は審査委員長にダグ・スコット(イギリス)、以下、ペーター・ハーベラー(オーストリア)、ジム・ドニーニ(アメリカ)、ド・コポルド(スロヴァキア)ら

の伝説的クライマーに、現役ジャーナリストが加わって、誰からも文句のつけようのないメンバーをそろえてきた。

4月21日、前夜に合流した佐藤裕介と、その前からシャモニ入りしていた谷口けい、平出和也と私、その家族も含めて、日本人7名がシャモニに集結した。その日から4日間は、ヴァレ・ブランシュの水河スキーやエギュー・ヴェルト北西側壁の登攀、そしてエギュー・デュ・ミディ山頂駅から懸垂下降し、コスミック稜の北東壁登攀、イタリアでスポーツクライミングをするなど、アルプスでの登攀を充分楽しんだ。

アルプスでの登攀もそうだが、今回は伝説的なクライマーとの交流も有意義なものだった。22日の前夜祭でもパネルトークがあり、テーマは「evolution of expedition climbing」。具体的には「8000メートル峰のノーマルルートにおけるフ

ィックスロープを使った極地法による登山について」「アルパインスタイルと新生ピオレドールについて」「ボルトについて」「オリンピックにおけるスポーツクライミングについて」「極地における冒険について」「高山におけるレスキューについて」などなど、興味が尽きない。

翌日の夜も「jury's night」。要は審査員のスライドトークショー、ダグ・スコットやペーター・ハーベラーが彼らの登攀を語る。言葉の問題があり、なかなか話の内容すべては理解できなかったが、ダグ・スコット著の『ヒマラヤン・クライマー』に出てくる数々の素晴らしい写真や、ペーター・ハーベラーの、ラインホルト・メスナーとのエベレスト無酸素初登頂の映像、ジム・ドニーニのラトックI峰の写真など、鳥肌が立つほど興奮した。

途中でワルテル・ボナッティも合流した。シャモニに来て、さまざまな人々と交流し、飲んで、滑って、クライミングして、ともに楽しんだ。また、彼らは日本のクライミングシーンに非常に興味をもっていて、敬意をもって接し

てくれるのがうれしかった。いくつになってもクライミングを楽しんでいる伝説のクライマーたちの姿を見て、こうなりたいなど心底思った。



1年のブランクを経て再開されたピオレドール

4月25日、いよいよ最終日。今日はこれまでと違って真剣だ。朝9時から、ノミネートされた各チームによるプレゼンテーションが始まった。個室で、審査員、スタッフを前に、ノミネーターが写真を解説しながら、それぞれのクライミングの成果を披露する。昼食ののち、審査員だけが別室にこもって選考のためのミーティング。私たちは日本人の正装・羽織袴と着物に着替え、21時からの「award night」に備える。



左から天野、佐藤、平出、谷口、アニタマッテン

そして「award night」。昨年秋のピオレドール・アジアのときと同じように、各隊のプレゼンテーション映像が、順番に会場のメインスクリーンに映し出された。そして、突然のように今年第17回のピオレドールはこの3チームに決定、との発表があった。驚いて訳がわからなくなっている私たちはステージに上げられ、審査員、シヤモニ・クールマイヨール両市長からピオレドール（金のピッケル）を贈られた。

結局、落選した3チームは、「アルパインスタイルではない」、「新ルートではない」、「頂上に立っていない」という3つの理由で、ピオレドールにもれたのだ。逆に受

賞した3チームは、このすべての条件を満たしている。これは、世間を納得させるには確かにわかりやすく、もつともなものであった。ひとつのピオレドールに絞るために比較し、競わせてふるいにかけるのではなく、それが妥当と思われるならば、場合によっては6本、全チームにピオレドールを贈れるだけの用意はしてあったようだった。

さらにはそれぞれのもつオリジナリティが評価されたようだ。すなわちスイス隊のテンカンポチェは「困難性」。難しさでは他を圧倒していたように思う。日本のカメラット隊は「探求の精神」。そのラインの美しさと、それを発見し完登したこと。そしてカランカ隊は「初志貫徹」。耐え抜いてあきらめなかったこと。

私は大学山岳部で登山を始めた。そして山に関するあらゆるものに興味を持ち、さまざまな時代の本や雑誌を読んでいくなかで、私に一番大きな影響を与えたのは、振り返ってみると80年代の記録であったと思う。そしてその象徴がラインホルト・メスナーであり、ダ

グ・スコットといった人たちであったのだ。その理念は「よりフェアなスタイルで」というものであったと思う。私たちは時代の恩恵を受けている。技術は進歩し、装備の進化はめざましい。運動生理学、高所医学も進み、時間単位でヒマラヤの天気予報が手に入り、エベレストで公募のガイド登山が行なわれるなんて、そのころは想像もし得なかった。

私たちが彼らを超えるようなクライミングをしてきたとは到底思えない。アルパインスタイルによるクライミングも、私たちが日本で初めて行なったわけではなく、これまでに世界に誇れる素晴らしい登山をしてきた日本人はたくさんいたのだから。

今回、私たちが日本から呼ばれて行ったということは、彼らは私たちを日本の代表として見ているということだ。個人的には、もちろん私は日本で一番強いわけでもなく、一番うまいクライマーなわけでもない。ただ私たちを見て、日本のレベルを低く見られないように意識する責任があると強く感じた。

謙遜しつつも、日本のクライミ

ングが世界に評価されたことに誇りを持って、金のピッケルを保持しようと思う。シヤモニに住む日本人の皆さんに「日本の誇りだ。われわれの評価にもつながります」と言ってもらえたことも非常にうれしいことであった。ただ、あくまで「金色のピッケル」はおまけであり、私たちはそのためにランカやカメットに登ったわけではない。賞をもらったからといって奢ることなく、慢心もせず、また、欲目を出してがんばりすぎず、これからも自分の信念に沿って山と向き合っていきたいと思う。

オピニオン

「高尾の森づくり」問題 やはり、事情がよくわかりません

田村義彦

会報『山』08年12月(764)

号掲載の「オピニオン」欄が、その前号に書かれた宮崎幸博氏の提案になにも応えていなかったたので、筆者は高尾の森づくりの会の然るべき責任者が誠実に応えるべきだと、2008年12月27日に『山』に投稿しました。

「会報編集委員会」にも、事情がよく分からないと説明を求める声が寄せられていた(『山』767号)の中に拙文も入るのでしょうか。

しかし、理事会の見解が出るまで掲載を見合すとのことで、今日まで待ちました。

そして、『山』09年4月(767号)に「高尾の森づくりの会運営正常化で確認書」が掲載されましたが、総論に過ぎて何がどのように正常化され、宮崎提案がどのように生かされたのか、その提案に異議を唱えた763号「オピニオン」欄の筆者は責任をとったのか、何

ひとつ事情がわかりません。

そこで、事情に疎い会員に説明するためには、会長名で発せられた「順守・改善指示書」とそれに対する高尾の森づくりの会の回答の公開が最も早道ではないでしょうか。個々の問題は「高尾の森」に特化されているとしても、他の組織にも関わる普遍的な課題が含まれていると拝察します。ご検討をお願いします。

また、『山』767号掲載の森づくりに関するふたつの文章を通して疑問に感じたことがあります。

会長が高尾の森づくりの会に「自然保護委員会の所管のもとに活動すること」を指示された「順守・改善指示書」が発せられたのは本年2月16日だそうです。その12日後に開催された「第3回森づくり連絡協議会」で、「自然保護委員会が森づくりの会を統括するのは無理があると思う」という意

見が出され、さらに本部に森づくり委員会を設置する私案が説明されて賛成意見が出たと記されてあります。これは、会長の「順守・改善指示書」に対する異議表明ではありませんか。たとえ、高尾の森づくりの会が「順守・改善指示書」を承諾したとしても、納得していない支部がほかにあるということになります。事は重大であります。火種はくすぶっていると言わざるを得ません。宮崎提案はそうしたことを見とおした上でのことなのではありませんか。

矛盾した内容のふたつの文章を、理事会または編集委員会がなんらのコメントも付さないままに並列掲載されて、一般会員はどう理解すればいいのでしょうか。事態が「正常化」したとは思えないのです。……。

＊本部(執行部)の見解は次号に掲載する予定です。





中村テル（なかもら・てる）

1904年、北海道生まれ。27年、女性で初めて冬富士に登頂するなど、女性の積雪期登山の先駆者。36年3月、日本山岳会入会、会員番号1641。61年には、女性だけの登山隊長として、ニュージーランドに遠征。88年、インドヒマラヤのマウン・ト・シヴァ登山隊に参加。また、日本山岳会海外委員長を務めるなど、海外登山の普及に尽力した。日本山岳会名誉会員。

中村テルさんを偲んで

早川瑠璃子

霊南坂教会で行なわれた前夜式は、5月6日の午後6時から始まった。式場に入った私は、一面に飾られた花々の美しさに圧倒されてしまった。白を基調としたなかに、ピンクと紫の花々が、素晴らしいハーモニーを奏でている。この淡い花たちに囲まれて、婉然とほほえんでいらっしゃるテルさん、私は思わず「テルさん、よかったわね」と、心のなかでつぶやいた。

というのは、20年も前になろうか、テルさん自らがこの教会に案内してくれて、「みんな、よく覚えていてね。死んだらここで葬式をすることになっているの。葬儀委員長も決まっています、彼に頼んである。だからそのときは、シッパで素敵な式になるように皆さんも協力してちょうだいね」とおっしゃったのである。テルさんとの思い出の数々が、脳裏に浮かんで消えていく。

テルさんにとって、日本山岳会最後の会務となった海外委員長時代を、私は一緒に過ごさせていただいた。委員会は男性ばかり。女性性は私ひとりだったから、小間使いの

追

OBITUARY

悼



ようにテルさんの仕事をやらざるを得なかった。人使いは荒かったが、明るく茶目っ気のある方だったから、楽しい何年かであった。

インドヒマラヤ登山は、婦人懇談会最後の企画であった。理事の田部井淳子さんと組んで私は委員長をしていた。また登山隊員のひとりとして、総務を担当した。英語が堪能なテルさんには、隊の顧問をお願いし、快諾を得ていた。

目標のシヴァに登頂できたものの、1988年7月のインドは30年に1度の豪雨が連日続き、連絡は唯一、4日ほど歩いた軍事基地からの電信に頼るしかなかった。

その間、連絡がまったくなかった日本では、田部井隊行方不明と報じられ、大騒ぎになってしまった。その際、ニューデリーで待機していたテルさんの活躍は、すごかった。インドのIMF元会長のサリ

ン氏にお願いして、さまざまな手配に奔走していただいた。時にテルさん、83歳であった。田部井さんも私も、今でもこの件に関して、畏敬の念をもって感謝しているのである。

テルさんの最後のお住まいは、浦賀水道が真下に広がる丘の上に



2007年8月23日、102歳の誕生日で

あるケア・ホームであった。20畳の広い部屋に数々の写真を飾られ、ゆったりと過ごしていらつしやうた。親しくさせていただいた方たちが、連れだつてはときどきお見舞いした。みんなで何うと、決まって冒頭に「お遠いところを、お越しいただきまして、ありがとうございます」と頭をさげられる。忘れられない、美しい日本語であった。

前夜式も雨。葬儀の日も終日、雨。葬儀が終わわり、お棺のテルさんと最後の別れをした。集まった方々の手で、白とピンクと紫の花々に埋め尽くされたテルさん。美しいお顔だった。そつと額に手を添えてみると、ひやりと死の冷たさが伝わってきた。私はもう1度、「ありがとう、テルさん」と心のなかでつぶやいた。

春惜しむ 百四歳の葬終わる

英文ジャーナル2009年第10号発行と編集長交代

編集人 中村 保

6月に第10号が発行された。おかげで順調に推移し、海外において広く認知され高い評価を得ている。おりしも2000年の春、日本山岳会の招待で来日したアメリカ山岳会『アメリカン・アルパイン・ジャーナル』の当時の編集長クリスチャン・ベクウィッツ氏が5月末に来日し、10年来の旧交を温めることができた。実は彼のひと言「日本の登山界は世界から孤立している。『岩と雪』(山と溪谷社刊)が廃刊になった後は、日本からの発信は途絶えてしまった」が英文ジャーナル発行の引金になった。当時の大塚博美会長の積極的な支援もあり、日本初の海外向け英文山岳ジャーナルが誕生した。

第10号のハイライトは、まずフランスの2009「黄金のピッケル賞 (ピオレドール)」の受賞候補となった3つの登攀だ。探検の分野では地理学者が関心をよせている東チベットの新氷河湖の踏査である。そして特別寄稿として、アメリカの専門家が高く評価するメコン川の初下降と源流・水源の総括的なレポートだ。

節目となる第10号の編集にあたっては池田常道氏(『岩と雪』の元編集長)に登攀と記録の大半を担当してもらった。その意味で池田氏との合作である。2006年第7号のJAC100周年記念号を含め、第1号から第9号まで私が単独で編集に携わり、オールジャパンの視野で取り組んできたが、2010年の第11号からは池田氏に譲る。私は編集顧問として、今まで培ってきた海外における人脈の維持と活用に心がけ、探検やフィールド調査の情報収集の面で池田氏をサポートする。



2009年6月
B5判 145頁
カラー写真、図版多数
定価 2,000円
(送料込み)

Japanese Alpine News Vol.10 June 2009 目次

Cover Photo: ジャロンI峰6292m東面、
念青唐古拉山東部・蜜波の北、波堆蔵布則普曲より望む
(中村 保)

■ Contributions 貢献

Activities in the International Mountains Museum, Pokhara
Akira Takehana
ポカラ国際山岳博物館への支援活動 竹花 晃

■ Climbs 登攀

2009フランス「黄金のピッケル賞 (Piolet d'Or) 受賞候補の3つの登攀
The First ascent of Southeast Face of Kamet

Kazuya Hiraide & Kei Taniguchi
カメット東南壁初登攀 平出和也 & 谷口けい
The North Face Direct of Kalanka Yusuke Sato
カランカ北壁直登 佐藤祐介
Pachinko on Denali; A Massive Link-up in the Alaska Range
Katsutaka Yokoyama
デナリ: アラスカにおける登攀 横山勝丘

その他の登攀

The Northeast Face of Teng Kangpoche
Yasushi Okada
テンカンポチェ北東壁初登攀 岡田 康
Siguninang Southwest Ridge 6250m, Changping Valley, Sichuan
Dylan Johnson
四川省・四姑娘山6250m南西稜初登攀 ダイラン・ジョンソン
Vasuki Parbat - The Judgement Game

Mick Fowler
インドヒマラヤバスキ・パルパット未完の登攀 ミック・ファウラー
Dingjung Ri 2007 & 2008

Tsunemichi Ikeda & Lindsay Griffin
ディンジュン・リ 2007&2008 池田常道 & リンゼイ・グリフィン
Two First Ascents in Geladaidong Massif

Y. Matsumoto & T. Nakamura
揚子江源流グラタンドン山塊: 二つの初登頂 松本征夫 & 中村 保

■ Records 記録

Expeditions to the Indian Himalaya in 2008

Harish Kapadia

インドヒマラヤ遠征 2008 ハリッシュ・カパディア
Report of Mountaineering Expeditions to Pakistan 2008

Karrar Haidri
パキスタン登山遠征 2008 カラー・ハイドゥリ
Japanese Climbs in 2008

Tsunemichi Ikeda
日本隊の登攀記録 2008 池田 常道
Avalanche on Kula Kangri in Autumn, 2008

Tsunemichi Ikeda
クーラ・カンリ雪崩事故 2008年秋 池田 常道
Successful countries in First Ascents

Josef Hala
国別初登頂記録一覧表 ジョセフ・ハラ

■ Explorations 探検・踏査

Exploring New Glacial Lakes in East Tibet
Takashi Shiro
東チベットの新氷河湖踏査 城 隆嗣

Marching up Yiong Tsangpo 2008, Nyainqentanglha East
Junichi Imai
念青唐古拉山東部・易貢蔵布を遡る 2008 今井 順一

Autumn 2008 expedition to Gorge Country in SE Tibet and Sichuan
Tamotsu Nakamura
2008東南チベット・ゴルジュの国から四川の山へ 中村 保

■ Special Articles 特別寄稿

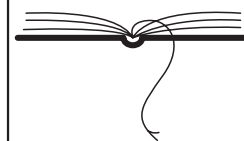
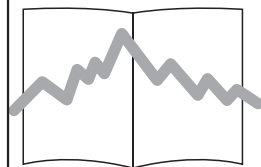
Geology and Tectonic Development of The Qinghai-Xizang Plateau
Yukio Matsumoto
青藏高原の地質と構造発達 松本征夫

The Mekong River - Descents and Explorations of Headwaters
Masayuki Kitamura
メコン川—初下降と源頭水源探査を総括する 北村 昌之

(翻訳・編集・作図・追補—中村 保)
Japanese Climbs 2005 in the Himalaya

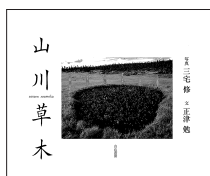
* 希望者は日本山岳会事務局まで連絡してください。

図書紹介



三宅修||写真 正津勉||文

『山川草木』



2009年4月
白山書房刊
A5ヨコ変型判 112ページ
定価 2100円

この本をはじめに目にしたとき、おっと思った。判型はA5ヨコ変型判。写真集にしては小さいし、エッセイの本としては横長で変わった形である。でも、開いてみたら分かった。収めている写真は、大きくても葉書を横にしたより小さい、縦位置の小さいのは昔の名刺判サイズよりも小さいか。つまり、判型をイメージしてみれば分かるが、写真集ではない。文章は、右ページに縦書きで50篇、写真は左ページに50葉。

画文集に対して写真文集という



本書から

のか、それぞれの作家の文章と写真のコラボレーションは、ときに編者の思惑をこえて迷走したりもする。

文章は、山登りとは直接関係のない古今東西の詩人・歌人・作家の記したものを正津勉が引用したうえで、自分の言葉でそれらの言葉への想いを精緻に書き綴る。名前をあげれば、堀口大學あり、山頭火、方哉、ランボー、牧水あり、はては金子みすゞ、立原道造、西脇順三郎の名前もある。山登りに

関係した人といえば、尾崎喜八、串田孫一、田淵行男、古くは窪田空穂、中西悟堂あたりだろうか。

三宅修の写真は風景あり動植物あり、その表現に狂いはないが、前記の正津の文章と見合せて、互いにときに調和音、ときに面白い不協和音を奏でる。

だからこれは「山の本」とはいえない。「山の写真集」でもない。

しかし、季刊雑誌『山の本』を出し続けてきた白山書房の創業30年記念だと知れば、その機智と意図に思いが及ぶだろう。装丁は、いわずと知れた、小泉弘。

三宅修は、50余年来山岳写真家として、その作風は現在の山岳写真氾濫のなかで独自の個性をその作品に表現しているし、正津勉は月に2度は山に登っている現役の「山登り詩人」であり、小説・エッセイの作家でもある。

「山の本」でもなく、「山の写真集」でもない、可愛いこんな本を手にとつて、幅の広い「山」という広場をあらためて迷うのも、楽しいひとときといえるのではないだろうか。

(大谷一良)

図書受入報告 (2009年5月)

著者	書名	ページ・サイズ	出版元	刊行年	寄贈／購入別
荒木浩二	水戸山の会50年史	152p/26cm	水戸山の会	2009	発行者寄贈
草川啓三	伊吹山案内——登山と山麓ウォーキング	183p/21cm	ナカニシヤ出版	2009	出版社寄贈
「泰澄の足跡」編集会議(編)	越知山 泰澄の道	175p/21cm	越知山泰澄塾	2009	個人寄贈
水越武 写真	わたしの山の博物誌	158p/21cm	新潮社	2009	出版社寄贈
二高山岳会部史編集委員会(編)	清き溪から真夏の空へ——第二高等学校山岳部々史	219p/26cm	東北大学山の会・二高山岳会	2005	発行者寄贈
水野勉	アルプス文献逍遙	244p/26cm	水野勉(私家版)	2008	著者寄贈
雁部貞夫	秘境ヒンドゥ・クシュの山と人——パキスタン北西辺境を探る	388p/23cm	ナカニシヤ出版	2009	出版社寄贈
日本山岳写真協会	日本花名山——いま、登りたい、撮りたい50山	175p/29cm	信濃毎日新聞社	2009	編者寄贈
Cally Henderson (ed.)	The Journal of the Mountain Club of South Africa 2007 (No.110)	175p/29cm	Mountain Club of South Africa	2008	発行者寄贈



平成21年度第2回(5月度)理事会
日時 平成21年2月13日 18時30分～20時30分

場所 日本山岳会会議室

【出席者】 宮下会長、神崎副会長、

宮崎・吉永・成川各常務理事、斎藤・藤井・石橋・太田・堀井・相馬・山川・岡部各理事、深川・竹中各監事、河野・近藤各常任評議員

【委任】 鯨坂副会長・古野理事
【欠席】 日下田常任評議員

【審議事項】

1・平成20年度決算監査報告(深川、竹中)

監事より現預金残高、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表並びに財産目録は、社団法人日本山岳会の収支・財政状態を適正に表示していること、また、事業報告内容は真実であること、お

報告

よび理事の職務執行に関しては不正行為または法令、定款に違反する重大な事実はないとの監査結果の報告があった。(承認)

2・支部長の交代(宮崎)

●岩手支部 菊池修身前支部長(6275) から内山達雄支部長(11612)
●宮城支部 千石信夫前支部長(7618) から高橋一義支部長(7885)

●宮崎支部 井野元繁前支部長(9674) から末永軍朗支部長(13054) (承認)

3・支部規約改正(宮崎)

宮崎支部から支部規約(会友の規定、広報委員会の規定、監事の規定、顧問の規定、役員・委員長の兼務の規定および支部役員会・委員会の開催等)に関する新設・改廃について報告があった。

4・102号室買収について(吉永) (承認)

永
102号室の所有者からの売買申し入れについて条件等の交渉経緯などの説明があり、引き続き交渉を進めることとした。(承認)

【報告事項】

1・会長・副会長候補について(宮崎)

4月18日、会長・副会長候補について会長経験者・前副会長に意見を伺う会を行ない、続いて開催された評議員会で会長・副会長候補者及び監事の推薦があった。

●会長 尾上昇(6001)
●副会長 神崎忠男(6002)、宮崎絃一(5751)、藤本慶光(12660)

●監事 深川安明(10560)、平井拓雄(7292)

2・支部役員変更(宮崎)

北海道、岩手、宮城、山梨、関西、宮崎の各支部から支部役員変更の通知があった。

3・支部総会報告(宮崎)

秋田、山梨、富山、岐阜、北九州、宮崎の各支部から報告があった。

4・支部総会出席報告(成川)
東海支部の総会に宮下会長およ

び成川常務理事が出席した。
5・岩手・宮城内陸地震お見舞いのお礼(宮崎)

岩手支部の菊池修身前支部長から岩手・宮城内陸地震お見舞いの札状と退任挨拶を受領した。

6・ウェストン祭開催通知と記念講演の講師推薦依頼(宮崎)

信濃支部から第63回ウェストン祭を6月6日～7日に開催する通知と7日の碑前祭の記念講演講師推薦依頼があり、森武昭・山研水力委員を推薦した。

7・多数の観光客が利用する区域における立木の安全点検等のお願い(宮崎)

中信森林管理署から連絡依頼があり、山岳研究所運営委員会にて対応を指示した。

8・「山環ネット」解散について(報告)(山川)

2006年発足の山環ネットは当初目論んだ成果があげにくい状況に鑑み、自然保護委員会で検討の結果一旦解散することになった。これに伴い外部(富国生命保険)からの助成金の未使用分約18万円は返還する。

9・同好会登録「みちのり山の会」(宮崎)

3月26日付にて届け出があった
(当会の母体は2006年入会者の
同期会「101会」である)。
10・支部長会議開催案内(宮崎)

5月23日開催の支部長会議開催
案内と資料作成依頼を4月20日付
にて発送した。

11・日本ヒマラヤ協会役員等名簿
(宮崎)

日本ヒマラヤ協会から今年度役
員等名簿が届いた。

12・役員改選案内及び事務所移転
案内(宮崎)

(株)山と溪谷社から役員改選と事
務所移転の案内が届いた。

13・平成21年度第1回評議員会開
催案内予定について(宮崎)

(財)自然公園財団から6月11日に
開催予定の案内があった。

14・通常総会開催にともなう懇親
会の案内(宮崎)

(社)日本山岳ガイド協会から5月
19日開催の案内が届いた。宮下会
長と宮崎常務理事が出席する予定。

15・今西錦司元会長所蔵地図の収
蔵(宮崎)

元会長今西錦司氏のご遺族から
寄贈申し出のあった山岳地図約1
287枚については、所蔵保管場
所等の問題からかねて国土交通省

国土地理院にその取扱い等を打診
していたが、国土地理院で寄贈を
受けることに決まった旨の連絡が
あった。

16・『山岳』資料掲載のお願い(成
川)

(株)扶桑社から書籍『剣岳 点の
記』ガイドブックにウェストンの
写真および『山岳』第一年第一号
の表紙などの写真の使用掲載許可
依頼があり許可した。

17・第6回通常総会開催のお知らせ
(宮崎)

(社)東京都山岳連盟から通常総会
(5月26日)開催案内が届いた。

神崎副会長が出席する予定。

18・自民党・ムダ撲滅PTからの
作業依頼(宮崎)

文科省スポーツ課から報告依頼
があった。

19・「高尾の森づくりの会」その後
(成川)

順守・改善指示を受け入れたこ
とに伴い常務理事会預かりとなっ
た「高尾の森づくりの会」との話
し合いが5月7日にもたれた。問
題、課題について「高尾の森づく
りの会」に対して確認、調整すべ
き点が残されており、今後も引き
続き話し合うことになった。

20・日中韓学生交流登山(宮崎)

今年は中国開催であり、8月17
日から26日の間、玉珠峰(617
8m)の予定で行なうとの連絡が
あった。

21・会報『山』5月号編集報告
(成川)

ルーム目誌 5月

7日 常務理事会 101の会

山岳地理クラブ

8日 常務理事会 指導委員会

高尾の森づくりの会

11日 総務委員会 アルパインス
キークラブ

12日 図書委員会 九五会 高尾
の森づくりの会

13日 理事会 集委員会 山想
倶楽部

14日 アルパインフォトビデオク
ラブ 山の自然学研究会

15日 定款検討委員会 会報編集
委員会 緑爽会 アルパイ
ンスケッチクラブ

18日 総務委員会 資料映像委員
会 学生部

19日 山岳研究所運営委員会 00
会 アルパインスキークラ
ブ

20日 常務理事会 三水会 つく
も会

21日 科学委員会 アルパインス
キークラブ

22日 総務委員会 アルパインス
ケッチクラブ

25日 アルパインスケッチクラブ
インターネット小委員会

26日 千葉支部 アルパインフォ
トクラブ ゆきわり会

27日 理事会 自然保護委員会

28日 麗山会

29日 01会

30日 土曜会

5月来室者547名

会員異動(5月)

物故

中村テル(1641) 09・5・3

岡田みち子(5003) 09・4・29

粕谷孝則(6680) 06・11・2

宮下喜一(7700) 09・3・31

田中義晴(10199) 09・1

石井啓介(10876) 09・5・4

退会

坂下心一(5719)

池沼 慧(6338) 東海

伊藤一之(8206) 東海

青井忠四郎(8640)

森 恵子	(9303)	
山田 透	(9343)	静岡
園木邦子	(9652)	関西
穴戸次夫	(10481)	福島
似鳥一彦	(10485)	
野路重男	(10744)	信濃
大久保昭次	(10817)	
坂下淳子	(11291)	
東野 良	(11387)	宮城
宗宮 眞	(12061)	岐阜
大崎直彦	(12084)	
矢後和夫	(12122)	
岡田宣之	(12295)	
中野慶一	(12473)	
加藤 実	(12858)	
倉内初枝	(13190)	
上野 孝	(13262)	
涌井政治	(13648)	越後
久保 郁	(13740)	
中原達彦	(13951)	
崎須賀 舞	(14101)	
内田純平	(14197)	
西本征二	(14272)	
終身会員		
目黒 実	(6171)	
早川禎治	(6231)	
岡野谷誠	(6690)	
中島 隆	(6779)	
遠山誠之介	(6815)	

◆事務局・総務委員会のアドレスを変更します

総務委員会

- (1) 日本山岳会事務局(東京)の専用メールアドレスを新設します。
会費、会員登録変更、会室利用、図書などの問い合わせに利用ください(従来通り電話でも承ります)。
jinukyoku@jac.or.jp
(2) 当会総務委員会の専用メールアドレスを新設します。総務委員会担当理事や委員長に直接配信されます。総務委員会主催の行事などの問い合わせに利用ください。
soumuinkai@jac.or.jp
(3) 当会への連絡は、従来通り、jac-room@jac.or.jpです。問い合わせなどには、当該委員会や理事、事務局などから返事いたします。
(4) jac-soumu@jac.or.jpは廃止します(当面、事務局に転送いたします)。

なお、右記は、6月25日より実施いたします。

インフォメーション



◆第16回上高地インタープリテーション

山の自然学研究会
自然保護委員会共催

期間 8月1日(土)～15日(土)

■ガイドウォークⅡ大正池、明神、小梨平方面を案内

■ミニトークⅡ夜7時30分より、温泉ホテル、アルペンホテル、西糸屋山荘で毎晩開催

■こどもスケッチ会Ⅱアルパインスケッチクラブ会員の協力で

開催(8月4日(火)～7日(金)、
西糸屋山荘前で9時～)

問合 古田寛昭 (FAX) 04-294-95631

✉ furutah@rivo.mediatl.net

短歌

五月の鏡平

春の雪をまとへる岩稜滝谷のかつて攀^{はこ}らたるルートを目に追ふ

ふもとより夕闇^{ゆふ}迫りて槍の穂に一日の終はりを示す残光

青白きひかりは満ちて雪照らす五月の夜のかの穂高岳

好天の兆しか今日もおだやかに朝日は昇る北鎌尾根より

雪原に雷鳥のつがひたはむれるまだらの姿は山肌に似て

弓折岳の頂稜下れば足下に赤きテント見ゆ箱庭のごとく

宇都木慎一

富山県[立山博物館]

富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1

TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

URL: <http://www.pref.toyama.jp/branches/3043/>



——立山の麓、芦峯寺にあって、立山の信仰・自然・登山の歴史を紹介する博物館——

当館は平成3年、かつて立山信仰の集落であり、近現代には山岳ガイドの拠点でもあった立山山麓の芦峯寺に開館、間もなく開館20年を迎えます。展示館・遙望館・まんだら遊苑の3つの中核施設と、教壇坊・善道坊の旧宿坊、嶋家・有馬家の移築民家、かもしか園（繁殖成績世界最良の特別天然記念物ニホンカモシカ繁殖施設）から構成されています。

展示館では、立山信仰の歴史と、人間の生活を支える象徴としての立山の自然を常設展示、遙望館では、立山信仰を今日の視点で捉えた作品と立山の四季を追った記録映像作品を、ともに35ミリフィルム3面マルチ映像によって常設上映しています。まんだら遊苑では、立山信仰の世界を、ひとりの芸術家—六角鬼丈東京芸大教授—の想によって再構成した体感野外施設展示を展開しています。

常設展示のほか、年に2回の企画展示、山岳映画を紹介する山岳映像企画などを開催して山岳関連情報の提示に努めてきました。今年は、夏に「夏風に舞う—高山蝶と森の蝶ゼフィルス—」（会期：7月18日～8月30日）を企画、富山のチョウ相を代表する高山蝶と森林棲のゼフィルス、その生活史と棲息環境を紹介します。秋には「立山山麓芦峯寺のオンパッサマ（娼尊）」（会期：9月26日～11月3日）を予定、芦峯寺村の地母神として古来信仰され続けた「娼尊」を多面的に紹介します。また、山岳映像企画では「山岳通信—山岳映像企画（11月7日、富山県民小劇場オルビス）—ニュース映画にみる昭和の山—」を予定しています。

【写真は、銅錫杖頭附鉄剣（国指定重要文化財）、陸軍参謀本部陸地測量部の柴崎芳太郎隊が明治40年に剣岳山頂で発見した錫杖頭】

入館料 3施設セット券：一般650円・大学生400円、

*高校生以下の児童・生徒・障害者等は無料
*館単位の入場料、団体割引、その他問合せください

開館時間 9:30～17:00

（入館は16:30まで）

休館日 月曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始（12/26～1/5）

交通機関 富山地方鉄道立山線「千垣」下車徒歩約2km（運行時刻に注意）。

車：北陸自動車道「立山」ICより約30分、「富山」ICより約35分

日本山岳会報 山 769号

2009年（平成21年）6月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビューハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

発行者 日本山岳会会長 宮下秀樹

編集人 神長幹雄

Eメール jac-kaiho@jac.or.jp

印刷 株式会社 双陽社

◆編集後記◆

●5月23日、平成21年度の通常総会が開かれ、尾上昇会長による新執行部が選出されました。理事会の若返りは目を見張るばかりです。もちろんただ若ければいいわけではありませんが、やはり若い彼らの力に期待したいものです。宮下秀樹前会長をはじめ理事の皆さんには大変ご苦労さまでした。

●シャモニで開かれた「ピオレドール」受賞の報告は、大変興味深いものでした。伝説的な登山家たちとの交流が、いかに若いクライマーたちにいい影響を与えるか、山岳会も学ぶべき点があるのではないでしょうか。

（神長幹雄）